あなたと博物館

No.247
2024.03.15

特集：松本市立博物館令和６年度企画展
「収蔵品展　戸田家臣団―松本藩最後の武士団―」

『御家閑習』部分

松本市立博物館令和6年度企画展
「収蔵品展　戸田家臣団 ―松本藩最後の武士団―」

2024.
4.20sat
▼
6.17mon

昨年10月に移転した松本市立博物館が建つ松本城三の丸は、かつて松本藩主に仕えた武士たちが暮らした「武家地」にあたります。

江戸時代、松本城を中心に発展した松本藩の陰には国や藩主を支える家臣たちがいました。当館では、歴代松本藩主のうち、最も長く松本を治めた戸田家に由来する資料を多く収蔵していますが、その家臣においても例外ではありません。

本展では当館収蔵資料を中心に、松本藩主・戸田家に仕えた家臣たちが多様な出自や職務を持ちながらも家臣団として組織的にまとまり、主君とともに激変の時代を生きた姿を紹介します。

はじめに～松本藩最長の藩主～

江戸時代、松本藩を治めた大名家は石川・小笠原・戸田・松平・堀田・水野の６家で、歴代藩主は23代にのぼります。そのうち戸田家からは11代の松本藩主を輩出しており、前期（元和３年（1617）～寛永10年（1633））と後期（享保11年（1726）～明治４年（1871））合わせて150年以上もの間、松本藩は戸田家の統治下にありました。この年数は歴代松本藩主の中で最も長い期間を占めます。戸田家に仕えた家臣たちも同様に、江戸時代の半分以上の期間にわたって、松本藩を支え続けました。

第１章　引っ越し大名戸田家

戸田家は全国でも指折りの転封回数を誇る「引っ越し大名」でした。戸田家の転封により、各地から家臣が登用され、家臣団が形成されていきました。

転封は藩主だけでなく、すべての家臣とその家族を連れての大移動です。10回目にして最後の引っ越しとなった松本への再入封、松本の町人の助けを得て家臣たちが入封を果たせた様子を取りあげます。

諸士出身記(松本市教育委員会蔵)

志州鳥羽図(松本市教育委員会蔵)

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

第２章　戸田家臣団

戸田家に仕えた武士たちは、実にバラエティに富んでいます。家臣団の中核となり藩政を支えた家臣、松本から離れた江戸で活躍した家臣、藩の学問を支えた家臣、中には特殊な技能を生業とした家臣もいました。

家臣たちが、それぞれの役割や特徴を持ちながらも、「家臣団」という主君を支える組織として１つのまとまりを持っていた様子を紹介します。

松崎家旗指物

『御家閑習』部分

餌猪口(松本市考古博物館蔵)

第３章　発掘調査で見る家臣の暮らし

近年、市街地の開発に伴う発掘調査によって、松本城三の丸内にあった武家地の様子が明らかになりつつあります。

武家屋敷の跡から現れた出土品は、武士たちの暮らしぶりを鮮やかに伝えます。三の丸内各地で行われた発掘調査の成果から、現代によみがえる家臣たちの息遣いを感じてください。

第４章　激動の幕末

江戸時代末期、慌ただしい社会情勢に翻弄され、戸田家臣たちも各地の警固や戦闘に駆り出されました。長らく泰平の世が続き、今まで戦場に立つことがなかった家臣たちは、度重なる出兵や遠征を経験することになります。ここでは、戸田家臣団が直面した幕末・維新の動乱の軌跡をたどります。

戸田家臣・青沼新吾写真

伝・会津戦争使用の背嚢

福島安正の正装

第５章　その後の家臣

明治４年（1871）、廃藩置県によって戸田家による松本統治が終わりを迎えました。家臣たちもそれぞれの場所で新たな生活を送りますが、武士の時代が終わり、藩という枠組みがなくなっても失われなかった戸田家と家臣団のつながりがありました。彼らの想いや営みが後世の私たちにもたらしたものに迫ります。

今回は博物館移転後初の収蔵品展です。150年以上にわたって松本藩を支え続けた戸田家臣団の軌跡とともに、当館自慢の資料をぜひご覧ください。

（松本市立博物館　学芸員／吉澤　せり子）

博物館移転に伴う資料整理

はじめに

松本市立博物館では、新博物館への移転に伴う資料整理を令和2年（2020）から続けています。

ここでいう「資料整理」には、資料のリスト化、選別、燻蒸（くんじょう）、梱包、運搬、データベースの整理、収蔵庫使用方針の検討など、さまざまな業務が含まれています。

今回は、今まで実施してきた資料整理の具体的な内容を報告します。

1　資料のリスト化

私が資料整理担当になって初めて着手したのが、未登録資料のリスト化です。

本来であれば、博物館の資料は適切な保存や活用のためにすべて把握され、管理されなければなりません。松本市立博物館ではデータベースを導入し、そこに登録することで資料を管理しています。

しかし、100年以上の歴史の中で約12万点の資料を収蔵してきた当館には、データベースに登録されておらず、管理が行き届いていない資料が多く存在していました。

管理されていないということは、破損、紛失しても分からないということです。このような状態で資料を新博物館に引っ越すことはできません。ということで、博物館の移転に先立ち、まずは未登録の資料をリスト化することになりました。

しかし、1点1点詳細に調査する時間はありませんでした。そこで、2人1組のチームを複数作り、どのチームでも同様の調査ができるよう、記入項目を必要最低限に絞った調査用紙テンプレートを作成するなど、効率的に作業を進めるために試行錯誤を続けました。

博物館資料は多様なので、扱いに苦慮する資料も多々ありましたが、調査を続けていく中で職員もコツをつかんでいき、新博物館開館前には9割近くの未登録資料をリスト化することができました。

2　収蔵庫収蔵方針の検討

続いて取り組んだのが、収蔵庫使用方針の検討です。簡単に言えば、収蔵庫に収蔵する資料をどのように整理して棚に入れていくかの話し合いです。

旧博物館では、寄贈者ごとに整理しているものもあれば、民俗・歴史・自然・美術などのように分類ごとに整理しているものもあり、収蔵方針が統一できていませんでした。方針が統一できていないと、資料管理上にも支障が出てしまいます。そこで、資料保管の安全性と活用のしやすさを両立するための収蔵方針を検討することとしました。

結果として、原則分類ごとの収蔵とし、一括性に意義のあるコレクションについてはコレクションごとに収蔵する方針となりました。例えば、古文書は古文書同士、民具は民具同士など、似た性質の資料をまとめることで管理もしやすくなり、活用の際も同系統の資料同士で比較しやすくなると考えたためです。

しかし、博物館資料は実に多種多様で、中には明確に分類するのが難しい資料もありますし、異なる分類でも一緒に保管しておくべき資料もあります。逆に、分類は一緒でも性質が全く異なる資料もあります。このように原則に沿えない資料が出てきたときの対処法は、まだはっきりと決められていません。

収蔵庫の収蔵方針はまだまだこれからも議論を続けていく必要がありそうです。

収蔵された資料の様子

3　燻蒸

燻蒸（くんじょう）は、ガス状の薬剤で資料を燻（いぶ）して、文化財に害を与える虫やカビを殺すための作業です。虫やカビの被害が広範囲にわたり、それを短期間で駆除する必要がある場合に有効な手段です。

本来であれば、被害にあってしまった資料を選別し、必要な分だけ燻蒸する、というのが一番望ましい形です。しかし当館では、施設の老朽化の影響でいずれの資料も虫菌害のリスクが高く、また全資料を選別する時間も人手もありませんでした。

そこで、旧博物館から新博物館に移送する資料はすべて燻蒸することにしました。48㎡のテントで計13回と、当館の前例にないような大掛かりな燻蒸となりました。

燻蒸の具体的な内容は、松本市立博物館ホームページで更新している「学芸員コラム」のVol.40でも紹介しておりますので、関心のある方は是非ご覧ください。

ただ、燻蒸はあくまでも「今ついている虫・カビ」を殺すものなので、その後いかに虫・カビから資料を守れる環境を作っていくのか、いわゆるIPM（総合的有害生物管理）が燻蒸以上に大切なのですが、新博物館におけるIPMは害虫トラップ設置などに留まっています。今後、虫やカビを収蔵庫に持ち込まないための運用方法や清掃計画などを作成する必要があります。

4　選別

新博物館への資料運搬計画作成に先立ち、まず新収蔵庫の収蔵可能容積を知るために、設置予定の収蔵棚の規格・個数などから、収蔵可能容積を算出しました。すると、旧博物館に収蔵されている資料すべては収蔵できないことが判明しました。

よって、新博物館に収蔵するものとそうでないもの（外部収蔵庫に収蔵するもの）を選別する必要が生じました。しかし、一人で12万点の資料を短期間で選別するのは不可能なので、学芸員全員で手分けをすることにしました。

具体的には、資料の分類ごとに、主担当1名と副担当1名の計2名を担当につけ、主担当が一次選別、副担当が二時選別を行い、異なる職員が複数回確認することで、資料の見落としがないよう心掛けました。また、写真類や古文書類など、その材質から新博物館収蔵が望ましいと考えられる資料については「紙資料は原則すべて新博物館へ」といったような大枠の原則を設定し、選別にかかる負担軽減をはかりました。

結果、なんとか期限内に選別を完了することはできましたが、時間の都合上直接確認できず、データベース上での確認に留まってしまった資料も多くありました。

当然のことながら、新博物館に収蔵された資料と外部収蔵庫に収蔵された資料の間に優劣差はなく、いずれの資料も大切な松本市の宝であることには変わりありません。外部収蔵庫は、新収蔵庫に比べてどうしても立ち入る頻度が少なくなってしまいますが、安心安全に資料管理ができるよう、収蔵環境の整備に努めていきたいと思います。

おわりに

今回は、松本市立博物館の資料整理について、課題点なども含めてご紹介させていただきました。大きくきれいな建物は完成しましたが、その中で行われるべき資料整理については人員や時間など多くのものが足りていないのが現状です。人員や予算の削減、特別展・企画展中心の博物館運営などの影響で資料整理が後回しになってしまうのは、当館だけでなく、多くの博物館が抱えている問題です。

展示と異なり多くの人の目に触れる機会が少なく、直接的な収益につながりにくい資料整理は、その必要性が理解されにくい業務でもあります。

しかし、収蔵資料は博物館の根幹であり、その資料の整理は、博物館が取り組まねばならない最重要業務の一つです。

そして何より、松本市立博物館の収蔵資料のほとんどが市民の皆様から寄贈されたものです。寄贈されるに至った経緯はさまざまですが、いずれも博物館を信頼して託してくださったものであると認識しています。寄贈いただいた資料をぞんざいに扱い、管理せずにいるのは、そうした皆様の信頼を裏切ることになります。

博物館資料の中には、誰もが一目で価値を認めるようなものもあれば、「どこの家にもあるじゃないか」とその価値を疑いたくなるようなものもあります。もちろん、唯一無二の価値を持つ貴重な資料も大切です。しかし、生活の中に溶け込み、その身近さゆえに見落とされてしまうような資料も、その地域で生きた人々の生活を物語ってくれる、何よりも大切な資料です。

こうした想いをより多くの人と共有できるよう、博物館資料ひいては地域資料の大切さを内外に発信していきたいと思います。

そして、そのためにも、博物館の資料整理に責任感を持って取り組んでいきたいです。

（松本市立博物館　学芸員／武井　成実）

ワークショップで会いましょう

新しい博物館の１階フロアには、どなたも気軽に立ち寄っていただける開放感あふれるスペースが広がっています。カラフルなイスと広いテーブルが並ぶこの一角で、様々な参加型体験講座がスタートしています。新生博物館とともに歩きはじめた当館のワークショップをご紹介します。

1　まきまきてまり

まきまきてまりの完成品

エントランスをかざる「てまりモビール」にも採用されたちいさなてまりを手作りする講座です。地産の原料にこだわって染め上げた色とりどりの糸の中からお気に入りを選び、もみ殻の芯材に糸を巻き付けます。まんまるに近づけていくその手仕事に、大人もお子さんも夢中になることおよそ30分、松本てまりの土台となる「地まり」の完成です。これだけでもかわいいのですが「展示されている松本てまりのような模様にも挑戦してみたい」というお声もいただきます。きっと先人たちもこんな風に、もっと美しいものをと工夫し楽しみながら、松本てまりを育んできたのでしょう。繊細な糸をかがりながら想いをめぐらせる、心地よい時間が流れていきます。

1階交流学習室でのワークショップの様子

2　カータリ人形ストラップ

カータリ人形ストラップ

全国的にも珍しい松本の七夕人形をかたどったストラップです。本体部分の木材は松本城内でその歴史を見守ってきた樹齢百年のケヤキの木でできています。大木の根が張って、城の石垣を崩してしまうため伐られたものですが、松本の木工職人さんの妙案と丁寧な仕事により、お守りサイズのストラップに生まれ変わりました。完成品はすでに販売され人気商品となっていますが、こちらのワークショップでは未完成のものからスタートし、手足となる紐を自分の手で通したり編んだりして仕上げていきます。好みの色のパーツを選べるので、愛着もひとしおです。三重県からの旅行で訪れワークショップに参加されたご婦人は、完成したストラップをさっそくバッグにつけて行かれました。こうして博物館からいくつものカータリたちが旅立ち、それぞれの場所で松本を語るきっかけになってくれたら嬉しいです。

3　寛永通宝鋳造体験

鋳造体験の完成品

博物館で堂々とお金をつくるという大胆なワークショップです。お金といっても江戸時代の寛永通宝、しかも流通用に加工する前の「枝銭（えだせん）」を、本格的な鋳造に近い技法を用いて石膏で作ります。子ども会のイベントとして市内小学生の親子46名が来館した折、初めてこのワークショップを行いました。石膏を型に流し入れ、乾燥時間に1時間を要しますが、この間にレプリカの甲冑を着用したり、昔の生活道具に触れる体験をしてもらいました。博物館での学びが広がるこんなプログラムも準備しております。

4　松本愛あふれるワークショップ

夏が近づくと小学校への出前講座でひっぱりだこの七夕人形作り講座など、市民学芸員さんによるワークショップが以前より人気を博しています。そしてこのほど、松本だるまをこよなく愛する市民学芸員さんの企画で、新館では初めての市民によるワークショップが、あめ市に合わせて実施されました。来る3月17日に開かれる博物館まつりに向けても、市民学芸員・友の会のみなさんが学び深めてきた松本の歴史や文化を、より多くの方と楽しみながら共有できるいろいろなワークショップの準備をすすめています。

松本だるまワークショップの様子

オープンから半年、市民の皆さんをはじめ観光客や地元の商店・企業さんなど様々な方が博物館に集うことで、出会いが交差し、新たな発見やわくわくするようなアイデアが生まれる場所へと新しい博物館が育ちつつあるように感じています。これから次々と展開されていく博物館ならではの特別な体験をぜひ楽しんでみてください。

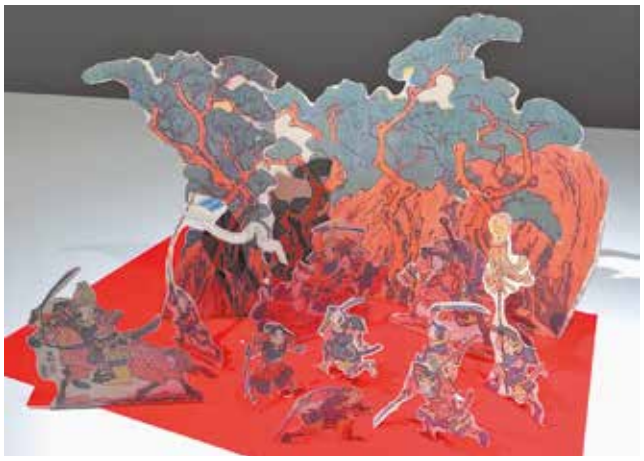
（松本市立博物館　学芸員／前田　利惠）

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

～ 子どもたちも楽しんだ浮世絵!　江戸のおもちゃ絵「立版古」～

特別展「至極の大衆文化 浮世絵 ―酒井コレクション―」では多くの人達に浮世絵の楽しさを伝えるため、多彩な関連イベントを開催いたしました。今回、ワークショップ「浮世絵で遊ぼう！」の様子を紹介します。

1　組上絵・立版古とは



「和田合戦とうろふ」(複製)を組上げたもの

テレビやゲームもない、江戸時代の子どもたちはどんな「遊び」をしていたのでしょうか。浮世絵というと高尚な芸術品といった印象が強いかと思いますが、実は子どもの手遊びのために描かれた色鮮やかな浮世絵も多数制作されていました。その１つが「立版古（たてばんこ）」。歌舞伎や合戦などの名場面が描かれた浮世絵を切り取って組み立てるペーパークラフトの一種で、庶民に人気を博しました。

時間を忘れて夢中で制作

2　特別展におけるワークショップの意味は

展覧会を開催する時、博物館ではその作品や資料の魅力を伝える方法を模索します。そのひとつがワークショップです。今回担当学芸員で相談したのが「子どもたちに向けて、ものづくりからクリエイター（今回は北斎などの浮世絵師）の心情を追体験できような事業を行えないか」ということでした。

北斎も描いた立版古「しん板くみあけとうろふゆやしんみせのづ」

3　リニューアルオープンした博物館の役割

今回のワークショップでは、お子さんも参加できるよう、使用する道具も日常にある道具（ハサミ、ピット糊、ものさしなど）で手軽にできるよう工夫しました。会場となったのは博物館１階の講堂。歩行者がガラス越しに中の様子を伺うことができる空間です。今回は事前申し込みとは別枠で開始30分前に館内放送で参加者を呼びかけました。

モノ作りは小学校以来とのこと(勉強の合間に参加の高校生)

すると何とオープンスペースで勉強していた高校生が「息抜き」で参加してくれたり、観光で特別展を鑑賞していた旅行者にもご参加いただけました。

博物館の１階は人とコトが交わる交流拠点。90分足らずではありましたが、楽しい時間を共有できた出会いの場でもありました。博物館の存在意義と、このスペースの可能性を実感できた１日でもありました。

（四賀化石館　学芸員／大島　浩）

※申込み・問合せは各館へお電話ください

みゅーじあむショップ通信

今回は時計博物館オリジナルのポストカードを紹介します。デザインは全６種で、当館ミュージアムショップの中でも人気商品のひとつになっています。故・本田親蔵氏が蒐集した国内外の古時計の魅力が感じられる商品です。学芸員のイチオシは懐中時計で、モノクロの背景に、装飾の美しいデザインがよく映えます。値段は１枚 100 円、６枚セット（組合せ自由）で 500 円。ご来館記念や知人の方へのお土産にいかがでしょうか。ぜひお求めください。

上段左からグランドファーザークロック、櫓時計、カッコウ時計
下段左からローリングボールクロック、時計博物館外観、懐中時計

展示スケジュール

詳細はホームページへ！ https://www.matsu-haku.com/ まる博 検索

館名称	4月	5月	6月
松本市立博物館	■令和6年度企画展「収蔵品展　戸田家臣団―松本藩最後の武士団―」4/20㊏～6/17㊊		
旧制高等学校記念館	■企画展「北杜夫『憂行日記』をたどる―作品と昆虫標本にみる信州の自然―」～5/6㊊		
窪田空穂記念館	■「松本の子どもの短歌・2023」入賞作品展 ～4/14㊐		
重要文化財馬場家住宅	■季節展示「ひなまつり」～4/7㊐	■季節展示「端午の節句」4/28㊐～6/2㊐	

※料金は通常観覧料　※月曜休館（休日の場合は翌平日）

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

令和6年度企画展「収蔵品展　戸田家臣団―松本藩最後の武士団―」

会　期　4月20日(土)～6月17日(月)
午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
会　場　市立博物館2階特別展示室
閉室日　毎週火曜日
観覧料　大人1,000円　大学生700円　高校生以下無料
※本展観覧券で3階常設展示もご覧いただけます。

関連事業

記念講演会「松本藩主の謎と真実―松平丹波守を知っていますか―」

日　時　5月18日(土)午後1時30分～3時
会　場　市立博物館　講堂
料　金　無料
定　員　80名(申し込み方法は松本市立博物館ホームページでお知らせします)
講　師　山本英二氏(信州大学人文学部教授)

武家地散策「家臣たちが暮らした場所」

日　時　5月25日(土)、5月26日(日)
いずれも午前10時～正午
集合場所　市立博物館　ポケットパーク
定　員　各回10名(申し込み方法は松本市立博物館ホームページでお知らせします)
料　金　無料

甲冑着付け体験

日　時　4月27日(土)～29日(月)、5月3日(金)～6日(月)、いずれも午前10時～午後3時
会　場　市立博物館　交流学習室
料　金　無料　※申込み不要

ギャラリートーク

日　時　①4月20日(土)、②5月11日(土)
③6月16日(日)いずれも午後2時～3時
料　金　観覧料　※申込み不要

ミニ企画展「収蔵品刀剣展」

会　期　3月16日(土)～3月31日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
会　場　市立博物館2階特別展示室
閉室日　毎週火曜日
観覧料　無料

窪田空穂記念館から　☎0263-48-3440

「松本の子どもの短歌・2023」入賞作品展

「松本の子どもの短歌・2023」の作品展です。市内の小中学校から応募いただいた 3,194 首の中から、最優秀賞・優秀賞・空穂会賞に入賞した作品を紹介、展示いたします。

会　期　3月9日(土)～4月14日(日)
会　場　窪田空穂記念館　会議室
観覧料　作品展無料(常設展示は通常観覧料 大人310円、中学生以下無料)
問合せ　窪田空穂記念館まで

短歌講座

本講座では、皆さんに事前にご投稿いただいた自作の短歌をもとに、現代歌壇で活躍する４人の先生方に、ひとつひとつの作品にこめられた言葉の魅力をお話ししていただきます。

日　時　① 第1回　6月1日(土)　三枝弘樹氏
② 第2回　7月6日(土)　米川千嘉子氏
③ 第3回　9月7日(土)　内藤明氏
④ 第4回　10月5日(土)　大下一真氏
いずれも午後1時40分～3時50分
会　場　窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
定　員　各30人(要予約・先着順)
申込み　4月9日(火)から窪田空穂記念館へ
(応募用紙はHPをご覧ください。)

馬場家住宅から　☎0263-85-5070

季節展示「ひなまつり」

会　期　2月25日(日)～4月7日(日)
会　場　重要文化財馬場家住宅
料　金　大人310円(中学生以下、松本市内の70歳以上は無料)

季節展示「端午の節句」

会　期　4月28日(日)～6月2日(日)
会　場　重要文化財馬場家住宅
料　金　大人310円(中学生以下、松本市内の70歳以上は無料)

旧制高等学校記念館から　☎0263-35-6226

企画展「北杜夫『憂行日記』をたどる―作品と昆虫標本にみる信州の自然―」

会　期　3月9日(土)～5月6日(月)
会　場　旧制高等学校記念館1 階ギャラリー
料　金　入場無料

旧山辺学校校舎から　☎0263-32-7602

昔の遊び道具作り教室

昔のおもちゃを作ります。

日　時　6月16日(日)　午前9時～正午
会　場　教育文化センター　206会議室
料　金　無料
定　員　25人(要予約・先着順)
対　象　全年齢(小学校低学年以下は保護者同伴)
講　師　荒田直氏、青柳秀人氏
持ち物　軍手・鉛筆(必要な方は水筒・手ぬぐい等)
申込み　6月6日(木)午前9時から旧山辺学校校舎へ

あとがき

4月から始まる松本市立博物館企画展は新館移転後初の収蔵品展です。収蔵品展は日ごろの地道な資料収集・保管なしには開催できません。新館移転に伴い行われた大規模な資料整理によって、調査研究に繋がり、今回お披露目することができる資料も多く展示する予定です。是非お楽しみに!

（松本市立博物館　吉澤せり子）

あなたと博物館 No.247
発行年月日/令和6年(2024)3月15日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0874 松本市大手3丁目2番21号
Tel.0263-32-0133
URL：https://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷　川越印刷株式会社

松本市立博物館
Matsumoto City Museum